

保護者のみなさま

箕面市立第二中学校
校長 俵積田 武志

学校教育自己診断の報告について

向春の候、保護者のみなさまにおかれましては益々ご健勝のこととおよろこび申し上げます。平素は本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年の11月、保護者のみなさまを対象に箕面市内統一の内容で、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。アンケートの提出数は349で回収率は約86%でした。集計結果及び考察をまとめましたので、ご報告いたします。今後も、一人ひとりの子どもたちの良さを認め伸ばしていけるよう、保護者のみなさまとの連携を大切に、教職員一同力を合わせて頑張ってまいりますので、ご支援・ご協力いただきますようお願いいたします。

★集計について

質問は30項目で、以下の選択肢で回答を求めました。

A) よくあてはまる B) ややあてはまる C) あまりあてはまらない
D) 全くあてはまらない E) わからない

質問をグループに分けて、2年間の肯定的回答(A+B)の集計を並べました。

■教育方針、全般的なことに関して

設問	項目の内容	R 2	R 3
1	子どもは、学校に行くのを楽しみにしている	83	78
2	子どもは、自分の学級が楽しいと言っている	80	84
10	学校は、教育方針をわかりやすく伝えている(教育目標を含む)	63	70
26	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている	46	56

設問1「学校に行くのを楽しみにしている」が5%減少しました。コロナ禍における学校行事の中止や部活動の停止など、子どもたちが「頑張りたい」「楽しみたい」気持ちが叶わないことが一因として考えられます。その中で、設問2「自分の学級が楽しいと言っている」は4%増加しました。コロナ禍であるからこそ学校でクラスの仲間と楽しく過ごすことが「心の安定」につながっていると考えられます。これからも子どもたちが楽しくそして安心できる学校となるよう教職員全体が一丸となって教育活動に取り組んでまいります。

設問26「校長のリーダーシップが…」については「わからない」という回答が30%もあり、校長として二中ブログの記事更新など、学校運営や教育活動の情報発信に努めていきたいと思います。

■保護者・地域に関して

設問	項目の内容	R 2	R 3
11	学校は、保護者・地域の願いに応えるよう努力している	66	71
12	学校は、保護者の相談に応じてくれる	67	75
20	学校は、家庭への連絡や情報提供を行っている	75	84
22	学習の内容や進度(行事)等を懇談や学級(学年)通信などによって知ることができる	70	74
23	デジタル連絡帳によって、学校との連絡がスムーズになった	—	40
28	電話での問い合わせや学校を訪問した際担当者が明確で迅速かつ丁寧な対応が行われている。	72	75
29	学校、学年、学級に決められているルール等は、子どもの状況にあった適切なものになっている。	58	64

設問11・12・20「保護者の相談などご家庭との連携」に関しては、肯定的な回答の割合が上がっています。引き続き、保護者・地域の願いに応じることができるよう努めてまいります。

設問22・23「学校や学年からご家庭へのお便りなどの情報の伝達方法」については、お子さまへのプリント配付ではなく、トモリンクスの連絡帳機能を可能な限り活用させていただきます。また、コロナ禍において、お子さまの欠席が増える中、トモリンクスからの連絡は本当に助かっています。設問28「電話での問い合わせや来校された際の対応」につきましては今後もより丁寧な対応を心がけてまいります。

設問29「学校のルール等は…」については、子どもたちの卒業後の姿を見据えつつ、教職員と子どもたちで対話を続けながらよりよいルールづくりに取り組んでまいります。

■授業・評価に関すること

設問	項目の内容	R 2	R 3
3	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている	55	59
4	子どもは、家庭学習を自主的に行っている	56	59
8	先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている	65	66
24	通知票は、子どもの学力や達成度をわかりやすく表すように工夫されている	66	71
5	子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる。	—	44
6	子どもは、タブレット端末での学習（デジタルドリルを含む）に意欲的に取り組んでいる	—	41

本校は「授業をつくる全員が『学ぶことは楽しい』と実感できる授業をめざして」「『認め合い、高め合い、学びを楽しめる子』を育てたい」をテーマとして校内研究を進めています。引き続き、子どもたちが「学ぶことが楽しい」と思える授業づくり（授業改善）を進めてまいります。設問8「先生は、子どもの評価を適切・公平に…」の肯定的な回答の割合が昨年度とほぼ変わりありません。適切（ふさわしいこと）・公平（偏らないこと）を、教職員で確認して子どもの評価にあたっております。設問5「英語で発表…」と設問6「タブレット端末（デジタルドリルを含む）での学習…」においては、新しい生活様式＜情報化社会から超スマート社会（Society5.0）＞の中で必要とされる能力であることを認識し、子どもたちにその能力を育めるような授業改善にも取り組んでいきたいと思っています。

■生徒指導・生徒理解・教職員に関すること

設問	項目の内容	R 2	R 3
7	先生は、子どもたちを十分に理解している	58	64
9	先生は、子どものまちがった行動を指導してくれる	73	77
13	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる	66	69
21	学校では、子どもたちの個人情報を守られている	70	75
27	子ども同士のトラブル等に対し、丁寧できめ細やかな対応により早期解決ができています	50	52

どの設問も少しずつ肯定的な回答の割合が増えてきています。本校では、子どもの理解をしっかりと行い、教職員で共有するための時間を定期的かつ必要時にとっています。生徒指導主事や人権教育担当教員が中心となっていじめ防止に向けたとりくみやよりよい指導のあり方を教職員と確認合っています。特に今年度は、「SNS を利用した写真掲載やメッセージの発信を安易にしない」「コロナ禍の不安から派生する偏見や間違った情報でいじめ問題に発展させない」ことを日頃から全体指導を行ってきました。今後も教職員一人ひとりが子どもたちの心の変化にいち早く察知し、トラブル等に丁寧に対応してまいります。

■人権教育・オンライン・小中連携などさまざまなとりくみに関すること

設問	項目の内容	R 2	R 3
14	学校は、子どもに生命を大切に作る心や態度を育てようとしている	66	72
15	学校は、全ての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている	65	73
16	学校は、オンラインを活用したとりくみ（授業・懇談・補習など）を積極的に進めている。	73	85
17	学校は、ICT 機器の取り扱いについて、子どもに丁寧に説明している。	50	68
25	学校は、小中連携を行っている。（箕面市は小中連携を進めています。）	—	56

設問14・15においては、本校は「学力」・「生活」・「仲間」（「認め合い、高め合い、学びを楽しめる子」の育成）の三本柱に沿って教育活動を行っています。そのなかで人権教育は必要不可欠であり、今後も丁寧に取り組んでいきたいと思っています。設問16・17のオンラインの活用や ICT 機器の取り扱いに関しては、教職員一人ひとりのスキルアップができるよう研修等で研鑽を積んでいきたいと思っています。設問25「小中連携…」についてはコロナ禍においてもできることを探していきたいと思っています。

■危機管理・施設管理に関すること

設問	項目の内容	R 2	R 3
18	地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に周知されている。	93	92
19	学校の施設・設備は学習環境において満足できる。	74	70
30	学校は新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりと行っている。	71	79

今後とも、自然災害や新型コロナウイルス感染に関する対応の情報発信は、学校メール（ライデンメール）及びトモニクスからお伝えいたします。また、子どもたちが安心して学校生活が送れるように、日頃から施設・設備の点検をして対応を心がけてまいります。